荒尾市立府本小学校　校長便り　№６２

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和７年１２月２２日(月)

【雑感】

最近、「強い組織」について考える時間があった。だいたい調べ物をするときはネットが多いが、今回は書店の自己啓発コーナーで調べた。こんな言葉を見つけた。

「強いチームというのは、指示された通りに動くだけではなく、各々がイマジネーションを膨らませて、それぞれの状況に応じて何をすればいいかを考えだすチームです。《中略》ルール作りも大事ですが、本当は一人一人のモラルが少し上がればチームはものすごくよくなるんです。決め事をたくさんつくるチームはあまりレベルの高いチームではないのです。」

その通りだと思う。個別に指示を待つのではだめだ。「個人としてはこうしたいと思うが、目標とのズレは？」と考え行動するのがよい。この考え方で個人が動くということは、組織としての前進を意味していると思う。前進（攻撃）は最大の防御だ。

組織の一員として組織のために自分には何ができるかを考え続けることができる組織は、本当の強さがある組織だと思う。

雑感SP【6年生へ卒業前特集　パート①　～　反抗期　～】

正月明けには、たまに新成人のマナーの悪さが新聞に掲載されます。例えば、式典の最中であるにも拘らず、外に出て携帯電話で大声で話していたり、タバコのポイ捨てをしたり、新成人がする行為ではありません。そこで大人が注意すると、すぐには話を聞かず、まるで小学校の高学年頃から徐々に始まる反抗期が、まだまだ続いているような感じです。私自身、担任させて頂いた世代は、成長した姿を見たいのと同時に、式典でヤンチャしないかと心配でした。

小学生や中学生に目を向けてみましょう。嫌なことを避けて生活している人は、その部分を指摘されると、黙りこくってしまいます。更に問い詰めると、涙ぐんでしまいます。精神的にまだまだ未成熟な時期で、仕方がないことなのかもしれません。でも、叱られ、壁を越える経験を積むことで、少しずつ心が成長していくのです。

６年生は、あと３ヶ月ほどで中学生となりますが、教科担当の先生が授業をされ、小学校のようにその先生方が生徒個人のことを深く知ると言うことも難しくなってきます。これが「中一ギャップ」の一つです。人は初対面の人に対して、こんなことを言います。「あの人は第一印象がよかった。」何を基準に判断しているのか？それは話し振り、受け答え、態度、身なりなどではないでしょうか。中学校、高校と成長していく中で、相手、時間、場所、目的などに合わせた言動を学んでいかなければなりません。中学校はその第一歩です。かといって人の様子ばかりうかがって、人によって態度を変えるようでは、信用がなくなってしまいます。いつどこで、どんな時も、どんな人にも優しい公平な心で接することが大切です。大変難しいことですが、それを学ぶことは難しさ以上に面白く、必要なことでもあります。

「中一ギャップ」をご家庭でも話題にして、卒業に向けての親子の対話の時間を持って頂き、これから始まるであろう「難しい時期」を乗り切っていただきたいなあと思う、今日この頃です。多分、一部のご家庭ではこの難しい時期が始まっているのではないでしょうか？私も子育ての中で経験しました。

シリーズ「自分を語る」#62

平成12年度、持ち上がりの６年生を担任させて頂くこととなり、嬉しさと責任の重さを感じつつ、新学期がスタートしました。

新学期早々から話が出ていたのがキャンプの話です。昨年度のキャンプは、まさに額に汗してという行事でした。今年は「楽して楽しく」を合言葉に頭をひねりました。「ナイトハイクがあれだけきついんだから、キャンプぐらいねぇ。」と言う子ども達もいました。私も何となくそう思っていて、キャンプは思い出づくりの部分を大きくしたいと思っていました。食事の準備もいいのですが、それよりも場所を変えることによる「非日常」の中で「このメンバーだから楽しい」と言えるような何かをしたいと考えていました。

家庭訪問中、ある保護者からのポヤキ…「去年のキャンプは、きつかった～。」確かにそうです。その瞬間、ひらめきました。社会教育施設…!?

「自然の家には宿舎があるじゃん…（ニヤリ）」

思い立ったら行動です。学級委員さんと相談して大まかな期日を決め、「熊本県立あしきた青少年の家」に仮予約を入れました。仮予約している間に、学級集団のモチベーションを上げ、保護者の協力を仰ぎつつ準備を進めました。予想通り、子ども達は全員参加、保護者の参加も15名程参加して頂くことになりました。あしきた青少年の家と言えばマリン活動が有名です。また、山の斜面を利用したローラーリュージュ等の活動も有名です。食事はバイキング形式で、当時、開所してあまり時間が経っていないので宿舎もとてもきれいでした。

活動のメインは何と言っても海水浴です。昨年度、真夏の登山を経験した私達は、もっと爽やかなイメージでキャンプしたいと思っていました。（実際はベタな雰囲気の海水浴ですが…。）到着早々、海へ移動です。水着は家で着てきたという子も多く、朝の１０時頃から泳ぎ始めました。遠浅の海岸で波も穏やか、ファミリーレジャーにはもってこいの場所です。また、保護者の参加や以前の教え子達のサポートもあり、海水浴場での安全性も限りなく高かったと思います。数時間泳いだ後は、子ども達が寄ってきて、「センセー！　センセーを埋めてもいいですか？」と言ってきました。「先生を埋めるなんて１０年早いわぁ！」と言いつつ、素直に砂浜に横になる私。子ども達があっという間に群がり、大量の砂を盛りました。そして恒例の記念撮影です。「カシャーカシャッ！」あちこちからシャッターの音が聞こえますが、私は眩しくて見えませんし、どのように埋められているのか全然分かりません。後で写真を見ると何と、女性の体を模して砂で埋められているではありませんか！　道理で大笑いするはずです。そんなこんなで、楽しい海水浴でした。子ども達は「初めて先生を埋めた。」とか「先生を埋めることができるのは俺たちだけだけん！」等と自慢していました。夜はクラフト活動でキーホルダーを作り、次の日はあいにくの雨でローラーリュージュができませんでしたが、体育室と呼ばれる冷房の効いた快適な施設の中でニュースポーツを楽しむことができました。

このような形のキャンプが、澤田組での定番となっていきました。（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　　可　・　不可　）